

まちだ防災カレッジ

MACHIDA BOUSAI COLLEGE

7
2023

《特集》

2年目に突入！

まちだ防災カレッジ

今日の非常識が明日の常識に！？

公式アンバサダー誕生秘話

ご参加ありがとうございます

避難施設関係者事前研修

関東大震災から100年！

夏期開催予定セミナーのご案内

子どもが楽しめる

イベント情報



この夏、
組織を強める

担当者にインタビュー

まちだ防災カレッジ始動から1年

前例踏襲の普及啓発は
時代に取られ残される

まちだ防災カレッジとは

災害対策には、ハード対策とソフト対策があり、この「まちだ防災カレッジ」はソフト対策として、「自助・共助」の向上と、公助との連携を強化する取組みになっています。

災害時、私たち行政機関や警察、消防による活動（公助）は限られており、被害を最小限に食い止めるためには地域住民の自助・共助が重要です。市民がそれぞれ、自分の命を守ることを第一優先とし、さらに「災害から大切な人を守る」という気持ちを持ち、防災リーダーとして活躍できるように、2022年度より新たな自主防災リーダー育成事業「まちだ防災カレッジ」を進めています。

2本柱「まなぶ」と「とりくむ」

「まなぶ」は主に、集合形式やオンライン、webコンテンツを活用して、個人が自分のレベルや希望に応じて受講できるようにテーマを設定した単発講座となっています。消防署や様々な団体と協力し、対象や目的別に細かくカリキュラムを設定した講習会を市民の皆様向けに開催、防災知識の向上を図ります。この防災学習によって「自助・共助」の向上、定着を図ってまいります。

「とりくむ」では、防災上の地域課題を抽出し、その課題の解決に向けて市が様々な関係機関と協力して地域の活動を支援する取組みです。「自助・共助」に資する「公助」によるサポートを平常時から行うことで、それぞれの連携強化を図っていきます。

事業スタートのきっかけ

2021年まで、リーダー講習会を

開催してきました。その中で、要配慮者支援や感染症対策等の課題について講師を招いて解決していく一方で、参加者からは、

- ・町内会自治会加入者の減少
担い手の高齢化

そうしたご意見をもとに、もっと広く、個人レベルで発信をしていかないといけないという狙いでカレッジ事業の取り組みを始めました。地震災害だけでなく風水害についても、これまで、「災害は忘れた頃にやってくる」と言われていたが、これが「災害は忘れないうちにやってくる」形になり、さらに「災害は予期しない形でやってくる」ようになりました。やはり一人一人が正確な知識を持つことが命を守る第一歩になります。

知ることの大切さ

町田市は、地域や環境によって、想定されるリスクが異なります。それぞれの地域のリスクに応じた対策が必要となってきますので、地区ごとにテーマを定めてアプローチを行っています。

例えば、昨年度、在宅避難をテーマに高ヶ坂や山崎団地を対象とし、在宅避難をするうえで、トイレの備蓄や日常のお片付けの必要性を提案しました。

事前に災害にどれだけ備えておくかが、発災後のスムーズな復興を進める上で不可欠となります。

今年度は、アウトドアをテーマとし、「まなぶ」講座を通じて、地域で「とりくむ」ことでさらなる課題を抽出していきたいです。

▼イベント参加者で簡易トイレの取り付け例を実践（高ヶ坂防災フェスタ）



今日の非常識を、
明日の常識にしたい

公式アンバサダーの導入

防災情報の発信は、全市民へ幅広い発信が求められます。これまでは自主防災組織を主な発信先としていましたが、加入率が年々減少しており、新しい取り組みが必要と考えました。

そこで、アンバサダー制度に着目しました。他の自治体では観光や広報分野など、いわゆる「映える分野」のアンバサダー（〇〇大使）を採用しているのはよく目にしますが、防災分野でアンバサダーを採用している自治体は多くありません。

自助・共助が最大限発揮され、まち全体の防災力を高めていくため、「まちだ防災カレッジ」のポータルサイトやSNSなどを活用して、防災に関する必要な知識を習得する機会を広く市民の皆様と呼びかけをするうえで、発信力は必要です。

そこで、防災情報などをあらゆる方法で魅力的に発信していくため、「まちだ防災カレッジ公式アンバサダー」の制度を新たに導入しました。

「参加型」で自分ゴトに

町田市では、アンバサダー募集の過程そのものを普及啓発とするとともに、市の取組みに対して「参加型」の取り組みとしました。

今回は、町田市に関わる幅広い年齢層の方々に対する「魅力的な発信」という面で大いに期待して、第一期の7名の方・団体にアンバサダーに就任していただきました。

アンバサダーには、防災を「自分ゴト」として捉えてもらい、学びながら情報発信を担ってもらい、防災の輪を広げてもらうことで、防災に触れる市民の割合を高めることを目標としています。

多様なメンバーが集う

アンバサダーの皆様は、紙芝居師「さるびあ亭かーこ」さん、町田相模原の情報発信サイト「まちさが」さん、地域情報メディア「マチダクリップ」さん、Vチューバー「焰原がむ」さん、市内在住の「マサラ」さん「えみゆ」さん、「らーゆ」さんで、SNSでの防災情報発信、イベントにおける出演等、得意な場、得意な方法で、町田市の防災・減災のために情報発信を行っています。

一人ひとりが広報担当

例えば、広報紙制作では、アンバサダーの方に撮影協力いただきました。発行された広報紙を家族、友人、さらにその友人に見てもらえれば、私たち市職員が登場するよりも、見てもらえる数は増えます。さらにも情報で防災に興味が高まった方にも情報を届けることができます。

必要な情報が載っている、見てもうえなければ意味がありません。まずは、興味をもってもらう部分から取り組み、アンバサダーとともに日々情報発信をしています。

実は、アンバサダー制度も、上司に提案した際「集まらないだろ」と最初は一蹴されました。ですが、今となっては、市役所内でアンバサダーの存在が知られてきています。今の常識を知っていることが絶対ですが、今ある常識に囚われずに、今の非常識を常識に変えていくことが必要だと思います。



▲立川防災館見学でのVR体験の様子
公式アンバサダーは、自ら防災を学びながら、町田市の広告塔として情報発信の役割を担う。

▼広報紙の撮影の様子



避難施設関係者事前研修

198名の方にご参加いただきました

事前研修

今年2023年度から実施する避難施設関係者事前研修は、地域主導の避難施設運営が各避難施設で行われること
・避難施設だけでなく、地域としての避難の在り方を確立すること
を目的として、始めました。

年度が替わるたびに技能や知識の積み上げができず、防災課主導の訓練になってしまおうといった声を多くいただいたため、連絡会の前に統一した研修を行いました。

研修では、避難施設の運営モデルマニュアルや東京都防災市民組織リーダー研修をもとにした内容や、新たな被害想定、防災WEBポータルに関する内容についてお伝えいたしました。

取組み事例の紹介

災害時に災害対策をスムーズに行えるよう、平常時に行っている取組みについて、発表いただきました。

その年その年でテーマを設定しており、今年は、防災直後の初動をテーマとした。避難施設としても、11月共同防災訓練に向けて、しおるを作成し取り組みを広めたいと思っている。（成瀬中央自治会）

町内会の防災マップを作成することで、より身近な情報になること、情報にわかりやすいと感じてもらっている。（上山崎町内会）

「顔の見える防災」をキャッチフレーズに、日常の延長に防災があるというのを強く訴えており、日頃からの挨拶がまずは大切だと感じている。（相原中村町内会）

夜間帯での開設訓練を実施し、ちよつとした段差など明るい時には何も思わなかったことも不便さを感じた。（金井町内会）

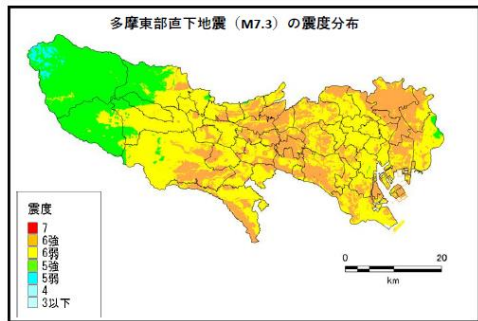
役員経験者を指導役として携わってもらうことで携わる人を増やしている。（大蔵町内会）

安否確認が第一なので、「無事です」プレートを出す訓練を年に複数回実施している。（つくし野グループ）

過去の災害では、トイレが問題になっていたり、トイレの備蓄を配布している。（金森市営住宅）

訓練は夏だけではなく、冬にも実施をする必要がある（芝好園自治会）

発災時の事前受付の混雑を想定し、事前に男女比等を把握している。（南大谷町内会）



新たな被害想定(2022年5月東京都公表)



グループワークでは、地域で独自に作成した防災マップを見ながら議論を交わした

ひと手間加えた訓練も

2つ目のグループワークでは、避難施設ごとに、今年度の年間予定を作成いただきました。

ワークの最後にて、複数グループから発表いただいた内容でいくつか参考となる取組みがありましたので、ピックアップしてご紹介します。

まずは、防災という括りで縛るのではなく、楽しいイベント（花火や焼き芋）を開催する中で、その延長として防災に関心を持ってもらえると嬉しい。

これまでは、自治会単位で訓練を行っていたが、今回の研修で意見交換をしていく中で、定期的に合同訓練を実施するのがよいのでは、という方向性がでた。

マニュアルはある程度かんせいしているが、それに基づいた訓練ができているので、実践した訓練ができアップしたい。また、学校との連携で防災教育も行い、若い人にも参加してもらおうことを目標としている。

コロナ前のマニュアルを今一度見直し、情報伝達の方法を検討していきたい。

人間の基本行動原理で、ノーミーズのときは情報が素通りしがち。情報を伝えるときは「なぜ」なんでもこの訓練が必要なのかと、事実と向き合わせる必要がある。

地域の保育園や児童館と連携して訓練を実施している。また、屋外テントの活用も検討をすすめている。

7月からは、多くの避難施設で、連絡会が始まります。避難施設のマニュアルが発災時に機能するか、訓練で実践するなどして、繰り返し確認することが大切です。

特に、発災直後の初動がしっかりとれるかどうか、避難施設開設のカギとなります。避難施設の運営には、地域の力が不可欠となりますので、引き続き、どうぞよろしく願っています。

なお、研修内での発表内容、参加者アンケートにつきましては、まだ防災カレッジポータルサイト内にて公開を予定しております。



▶防災士として、日ごろから講演を行っている



◀ひとつの自主防災組織レベルの取組みを、避難施設単位でも実践したいと語る

関東大震災から100年

この夏開催予定のイベントをご紹介します

STUDY

くらしフェア アウトドア×防災講演会

日常から楽しめるアウトドアの技能や知識を防災にいかしましょう。



■実施日時

2023年7月28日(金)
午前10時30分から正午まで

■会場

市民フォーラム(原町田4-9-8)

■講演会

・あんどろりす氏による

「アウトドア×防災」に関する講演

■申込

イベントからお申し込み

水道キャラバン

■実施日時

2023年8月22日(火)

午後2時から午後3時まで

■会場

町田市役所3階会議室

■申込

まちだ防災カレッジポータル

サイトからお申し込みください。



ENJOY

真夏の天体観測会×アウトドア防災

広い野球場にテントを張り、星空を眺めてみませんか。

■実施日時

2023年8月25日(金)

■会場

サン町田旭体育館・町田市民球場

(旭町3-20-60)

■詳細

下記QRコードからご確認ください。



STUDY

防災フェア

■実施日時

2023年8月28日(月)

9月1日(金)まで

■会場

町田市役所1階イベントスタジオ

(町田市森野2-2-22)

■出展協力

・連携協定企業 多数出展予定

STUDY

パパママ防災講座

地震に関する豆知識と乳幼児を持つパパママ向けの防災講座を開催。

■実施日時

2023年8月31日(木)

午前10時から午前11時30分まで

■会場

町田市役所3階会議室

■講師

株式会社明治

■申込

まちだ防災カレッジポータルサイトから

お申し込みください。



PickUp

防災意識向上プロジェクト

東日本大震災を経験した語り部による講演会を開催します。



インフォメーション

防災WEBポータル
発災時、避難施設の開設状況などを確認できます。



**まちだ防災カレッジ
Instagram**
・イベント情報や防災に関する情報を発信しています。



**東京都町田市(防災・安全・
気象情報)(町田市公式)**
防災・気象・地震情報などを配信しています。



キキクル
大雨などで発生する恐れのある、土砂災害、新水害・洪水の危険度分布を確認できます。



**まちだ防災カレッジ
ポータルサイト**
町田市防災における普及啓発に関する取り組みを集約しています。避難施設での取り組みも今後PR予定です。



防災フェスタ2023

防災をより身近に体験！

■実施日時

2023年7月22日(土)

午前10時から午後3時30分まで

■会場

町田シバヒロ(中町1-20-23)

■協力

町田消防署、町田警察署、陸上自衛隊、他の防災関係機関や企業、団体

■出展内容

VR防災体験、まちかど放水体験、起震車体験、ドローン操縦体験、他災害救助犬との交流、自衛隊によるカレーの炊き出し(300食限定)、防災関係機関の災害対応車両の展示、他キッチンカーも出店。



▲防災フェスタチラシ
▼当日のタイムスケジュール

タイムスケジュール	
10:00	イベント開始(VR防災体験車は11:00~開始)
10:15~	あんどろりす講演会 ~アウトドア防災~
11:00	自衛隊炊き出しカレー配給開始
11:30~	チャイム講演会 ~防災漫才~
13:00~	あんどろりす講演会 ~アウトドア防災~
14:00~	チャイム講演会 ~防災漫才~
15:30	イベント終了



▲アウトドア防災について、あんどろりすさんが登壇予定です

▼赤プルとしても活躍！お笑いコンビチャイムによる防災漫才も

